

Stitches for Riches 広報誌 シェムリアップ通信

2022年 3月号

作成: Stitches for Riches
広報誌編集部

<近況報告>

皆さんこんにちは。今年1月8日（土）合同カンボジア研修会が実施され、本校の Stitches For Riches（SFR）の12名のメンバーが参加しました。本校の他に昭和女子大学付属昭和中学校・高等学校、岡山学芸館高等学校、広島女学院中学高等学校 和歌山信愛中学校高等学校が参加しました。研修会では、各学校の活動紹介、カンボジア社会活動家のトークセッション、そして高校生が考えた「国際支援で大切にすべきこと」の発表などが行われました。今回は、私たちがそこで出会った4人のカンボジア社会活動家の方々を紹介します

<カンボジア社会活動家の紹介>

★内田隆太さん

内田さんは“Share the Wind”と言う団体を設立し、2014年から小学校の教育支援を行っています。内田さんは2回、“Stitches for Riches”のZoom ミーティングに参加していただいたことがあります。内田さんはシェムリアップから約60キロ離れたリエボン村と言う小さな村で活動しています。

今回の研修会で内田さんは、「信頼関係はくみ上げるもの」と語っていました。内田さんは、リエボン村で現地の人々と同じように生活し、信頼関係を築いてきました。この信頼関係は、時間と努力から築き上げられるものだということを私たちに伝えてくださいました。



★木下レイナさん



木下さんはカンボジアのシェムリアップで、胡椒専門店「RAYS SHOP」を営んでいます。高校生の時にベトナムを訪れた木下さんは、現地の現実を目のあたりにし、当時目指していた看護師の道から、高校卒業後にカンボジアに移住する道を歩み始めました。現在は、胡椒ソムリエとして活動し、カンポットペッパーの魅力を世界へ発信し続けています。今回の合同カンボジア研修会では、現地の状況や現地の人達との接し方、日本と全く違う環境での生活など、様々なことを語り、私たちに伝えてくれました。

木下さんは先月2月1日（火）21時にBS日テレで、Daigoと共演し、カンボジア・シェムリアップについてレポートしました。

★関谷やよいさん

関谷やよいさんはカンボジアのシェムリアップで奮闘する飴細工職人です。旅先で出会った飴細工に魅了され、35歳の時に仕事を辞め、飴細工職人に弟子入りしました。日本で5年間職人として活動したのち、40歳でカンボジアに渡り「キャンディーアソール」をオープンさせました。現在は、現地スタッフとともに約30種類の飴を手作りしています。カンボジアでこの仕事に大きなやりがいを感じ「シェムリアップで絶対みんなが遊びに来るお店にすること」を目標に、新しいスイーツも計画するなど未来志向の道を歩んでいます。



★山勢拓弥さん



山勢さんは、カンボジアに移住し、起業した方です。ゴミ山で1ヶ月間仕事をするという経験から「村には成長できる、頑張れる環境が少ない」と感じ、ゴミ山という劣悪な環境にあるアンルンピー村で、頑張りたい人が頑張れる環境を作るためにKumaeという会社を設立しました。

Kumaeは、村での仕事の選択肢を広げるためにバナナペーパー事業や日本語学校、ミシン学校の運営を行っています。バナナペーパーとは、バナナの木繊維から作った紙のことです。山勢さんは、世界初の水にぬれても破れない「バナナペーパー」を製造し、「バナナペーパー」を使った商品を販売しています。これは、子どもたちの親が安定した収入を得られることを目的として始まった事業の一環です。

<合同カンボジア研修会に参加したメンバーの感想>

今回の研修会に参加して、多くのことを学ぶことが出来ました。参加したメンバーの感想の一部を紹介します。

「今回の研修で色々な話を聞いた中で、良かれと思って支援したつもりでも、現地の人にとっての支援になっていないこともある、とわかりました。また、先を見据えて現地の人達をサポートする形の支援が大切だと感じました。他校の活動や支援に対する多様な考え方など、様々な話を聞くことが出来て勉強になりました。今後自分たちの活動に活かしていきたいです。」

「今回の研修で様々なお話を聞いた中で、自分の文化や価値観が常識なのではないと知ることが支援をする中でとても大事だと思いました。自分の意見を持ちながらも、相手の意見もしっかりと尊重して物事を進めていく柔軟な姿勢がこの活動だけでなく様々なことをする上で大切だと思います。今後、自分自身の活動にしっかりと活かしていきたいです。」

「私は『支援は精神的な繋がりを大切にする』という意見がすごく心に残りました。より素敵な製品にして多くの人に買ってもらう、という目標はもちろん大切ですが、それ以上に製品を作ってくださるカンボジアのお母さんたちと購入してくださる方たちや製品作成のお手伝いをする私たちの繋がりを意識することが大切なのかなと感じました」

<今後の“Stitches for Riches”の販売に向けて>

現在、カンボジア裁縫プロジェクト Stitches for Riches では、聖書や讃美歌を入れられるサイズのバッグ（500円）、お弁当を入れる巾着（400円）、ペットボトルカバー（300円）をカンボジアのお母さんに縫っていただいて、9月の啓明祭で販売しています。今後は、上記の商品以外にも、A4サイズのファイルや体操着を入れられるサイズの大きなバッグを販売する計画を立てています。また、より使いやすく魅力的な商品にするために、メンバーで商品開発を行っています。

ぜひ、こんな物があったら良い、ここをこのように改善して欲しいという具体的なアドバイスやアイデアがある人は、メンバーに伝えてください。

よろしくお願いします。

